

向方南遺跡出土縄文時代遺物



らんたい
籃胎漆器碗



赤漆塗り高台付椀



縄文時代前期



縄文時代中期



縄文時代後期

平成28年指定遺物（一部）

〔指定年月日〕

平成二三年二月九日

平成二八年三月二三日

追加指定

令和五年 二月二七日

追加指定

〔種別〕 指定有形文化財（考古資料）

〔名称〕 向方南遺跡出土縄文時代遺物

〔点数〕 六三八点

〔所有者等〕 杉並区教育委員会

〔所在地等〕 大宮一―二〇―八（郷土博物館）



耳飾り



耳飾り



くし
櫛



櫛

0 S=1:2 4cm

指定有形文化財（考古資料）

向方南遺跡出土縄文時代遺物

向方南遺跡は、昭和五七（一九八二）年に発見されて以来、五回の発掘調査が実施され、縄文時代の遺跡として周知されている。

本遺跡の出土遺物は、これまで二度にわたり区指定有形文化財（考古資料）に指定されている。平成二三（二〇一一）年には、第三次調査（C地点）で出土した縄文時代早期の遺物群一三八点が指定され、平成二八（二〇一六）年には、第一・二・四次調査（A・B・D地点）で出土した縄文時代草創期から後期の遺物群四一三点が指定された。

今回、追加指定する資料は、第五次調査（E地点）の出土遺物である。神田川右岸の旧河道の川底に堆積した土壌から出土したもので、縄文時代前期から後期の遺物群である。土器三八点、石器一六点、石製品六点、土製品一四点、木製品一〇点、編組製品三点の合計八七点である。木製品や編組製品、動植物遺存体が良好な状態で残存するという低地遺跡ならではの特徴を有しており、特に籃胎漆器碗や漆塗りの木製碗が注目される。

籃胎漆器碗や漆塗りの木製碗は、杉並区内では初出の資料

であり、当区のみならず東京都内における縄文時代の歴史や文化を考える際に重要な情報を提示する貴重な資料である。本資料群は、縄文時代前期から後期の時期に、神田川流域で生活していた縄文人が、土器や石器だけでなく、木製品や竹製の編組製品も利用して豊かな生活を営んでいたことがうかがえ、杉並区内の歴史を識る上で重要なものである。

【文化財旧所在地】

